

2024 年度 白鷗大学大学院 経営学研究科入学試験問題(経営学)

【解答例】

1. マズローの欲求階層説は、人間の欲求を階層構造として捉える動機づけ理論である。マズローは人間の基本的欲求を、生理的欲求、安全の欲求、所属と愛情の欲求、尊重の欲求、自己実現の欲求という5段階に整理し、下位の欲求が十分に満たされるにつれて、より高次の欲求が顕在化しやすくなると論じた。さらにマズローは、人間を欠乏の充足だけでなく成長や自己実現を志向する存在としてとらえ、自己実現欲求を最上位に位置づけた点に特徴がある。

以上のような説明に対して自らの見解を述べること。

2. コンティンジェンシー理論は、「組織にとって最適な構造やマネジメントのあり方は一つではなく、環境や技術、規模、戦略などの状況要因に依存する」と主張する。代表的な研究として、バーンズ&ストーカーは、安定的環境では階層的・公式化された機械的組織が、変化の激しい環境では分権的で柔軟な有機的組織が有効であると論じた。ローレンス&ロッシュは、環境の不確実性に於いて部門ごとの分化と、それらを統合する仕組みとの適合が必要であることを示し、組織構造と環境との「適合」という観点を強調した。

以上のような説明に対して自らの見解を述べること。

3. ポーターのファイブ・フォース・モデルは、産業構造が企業の平均的収益性を規定するという産業組織論の前提に基づき、競争環境を5つの「力」に分解して分析する。その5つとは、①業界内の既存企業間の競争の激しさ、②新規参入の脅威、③代替品の脅威、④買い手の交渉力、⑤供給業者の交渉力であり、これらの力の強弱が産業の利益水準を決定するとされる。ポーターは、競争戦略の本質を「競争への対処」と定義し、参入障壁の構築や差別化などを通じて、有利なポジションを確保することを企業に求めた。

以上のような説明に対して自らの見解を述べること。